

# 茶病害虫防除情報

令和元年 12 月 25 日

## 【第 22 号】

鹿児島経済連・肥料農薬課

秋芽生育期の病害新防除法地区栽培暦に採用

### 予防的殺菌剤と治療的殺菌剤の混用による新防除技術

今年、県農業開発総合センター茶業部から普及に移す研究成果(普及情報)として秋芽生育期における炭疽病など病害の予防的殺菌剤と治療的殺菌剤の混用 1 回散布法による新しい効率的防除法が確立されました。本防除法は秋芽生育期に発生する炭疽病、新梢枯死症、網もち病に対し多発生条件でも安定した高い防除効果を示し、これまでの慣行防除法(萌芽～1 葉期と 3～4 葉期 2 回散布)に比較し、同等以上の防除効果を上げることから来年の殆どの地区茶栽培暦に採用になりました。そこで、再度その詳細について説明します。

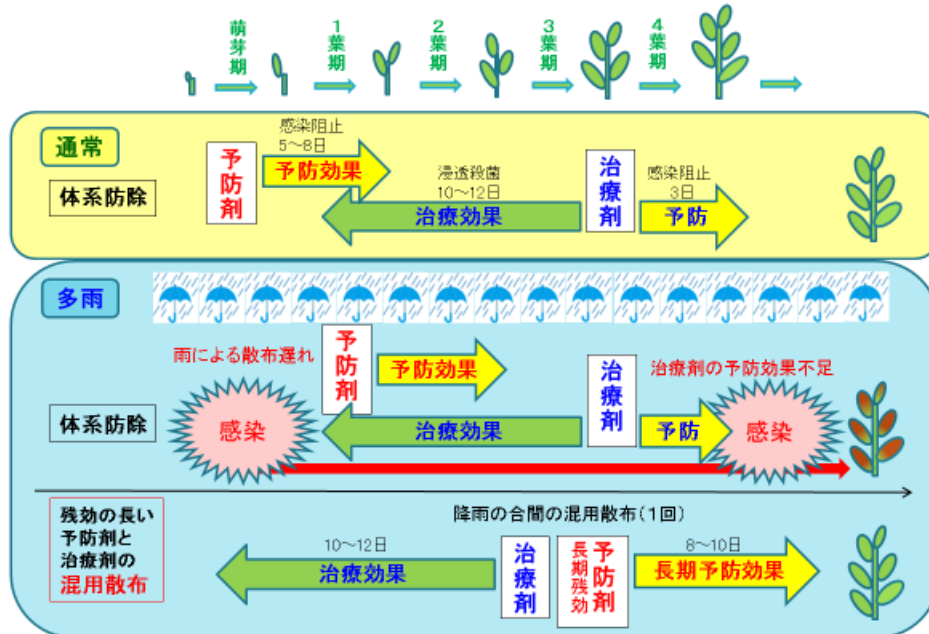
#### 新防除法の理論概要

#### 秋芽生育期の多雨条件、多発状況における病害新防除法

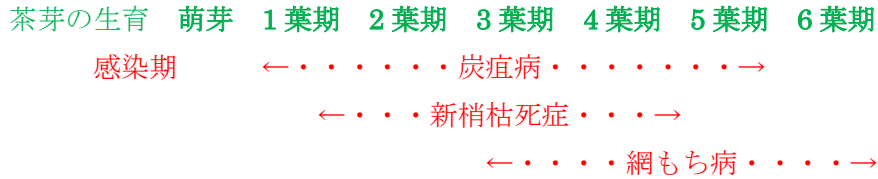
#### ダコニール 1000 とインダーフロアブルまたはオニリーフロアブルの混用散布による防除法

予防効果の長い残効性があるダコニール 1000 (散布後 7～10 日程度感染を阻止する効果) と治療効果の高い DMI 剤のインダーフロアブル、オニリーフロアブル (散布 12 日程度前までの感染の発病阻止効果) を 2～4 葉期に混用散布する方法により両薬剤の作用特徴を活用し、効率的に 1 回散布で、感染が起こる秋芽生育期の萌芽～5 葉期頃まで概ね 20 日間程度炭疽病、新梢枯死症、網もち病など病害の感染・発病を阻止できる。また、慣行防除法の散布遅れ、残効低下による防除効果低下などをクリアし、防除効果の安定化が図られる。

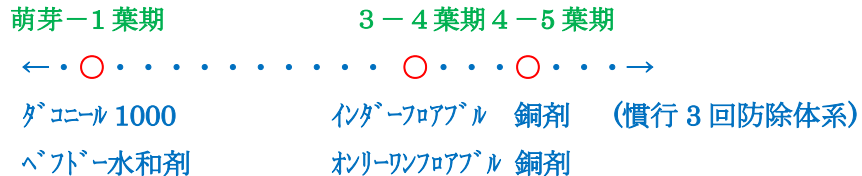
#### 秋芽生育期 炭疽病防除のイメージ



※ **秋芽生育期の病害感染時期**

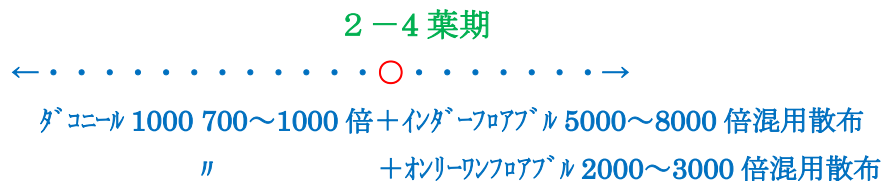


これまでの慣行防除法 (2-3回体系防除法)



- 欠点 ① 予防効果と治療効果の重複作用面があり、無駄がある。  
② 1 回目散布(萌芽～1 葉期)が降雨などで遅れると防除効果が低下する。  
③ 2 回目散布が早いと残効が低下し、生育後半期に感染発病が生じる恐れあり。  
④ 散布回数が多い。 ⑤ 新梢枯死症に対する効果が低い。

新防除法 (ダコニール 1000+DMI 剤混用散布防除法)



- 特徴 ① 1 回散布で、秋芽生育期間 (概ね 20 日間) の感染・発病を阻止し、安定した防除効果を示す。  
② 炭疽病、新梢枯死症、網もち病の何れも効果的に同時防除できる。  
③ 散布回数が削減できる。

予防的殺菌剤・治療的殺菌剤の混用散布法の防除法と留意点

- ① 予防的殺菌剤は予防効果・残効性の優れるダコニール 1000、治療的殺菌剤は治療効果が高い(12 日前まで)DMI 剤のインターフロアブルまたはオニールフロアブルとする。
- ② 治療剤(DMI 剤)の治療効果(12 日程度)から判断し、秋芽 2-4 葉期散布とする。
- ③ 降雨による感染を予察し、萌芽後最初の降雨から 11-12 日後頃迄の散布とする。
- ④ 伝染源量、降雨状況により薬剤の散布濃度は高・低濃度を設定する。
- ⑤ 新梢枯死症防除は 2-3 葉期散布の効果が高い。
- ⑥ 網もち病の感染は生育後半のため多発生園では銅剤を 4-5 葉期に追加散布する。
- ⑦ 害虫防除は慣行どおり実施する。本混用散布法は 2 回目に同時防除するとよい。
- ⑧ 殺虫剤との 3 種混用散布は試験の結果葉害などの問題はみられない。
- ⑨ 本混用散布法は梅雨期の二・三番茶期において、降雨後などで、散布遅れとなる状況などで効果的に防除できる。
- ⑩ 摘採時期を遅らせ収穫するドリンク原料茶、碾茶栽培の防除にも効果的と思われる。

具体的な試験データ

秋芽生育期のダコニール1000+DMI系剤混用散布病害防除効果試験結果・総括(防除率)

炭疽病

試験年次 場所	伝染源 病葉数	散布前 降雨	散布後 降雨	混用 DMI剤	高濃度散布法		低濃度散布法		慣行 防除法	無処理発病 (葉/m <sup>2</sup> )
					2-3葉	3-4葉	2-3葉	3-4葉		
2016年 大隅	少	少	中	インダール	98.2	97.4		96.9	95.8	30
2016年 茶業部	中	少	中	インダール	99.8	99.4	99.9	99.7	98.4	138
2017年 大隅	少	少	少	インダール			95.4	96.3	91.0	58
2017年 茶業部	中	中	中	インダール			98.3	96.5	96.2	536
2018年 茶業部	多	多	中	インダール	98.6	98.7			89.5	1136
2018年 大隅	中	多	無	オリアール	96.2	97.8			96.2	471
2018年 茶業部	多	少	多	インダール	99.0	98.9			96.5	1074
2018年 大隅	少	中	中	オリアール	96.5	83.7			77.2	133
2019年 大隅	多	多	中	インダール	99.0	99.5		99.6	98.6	2181

新梢枯死症

試験年次 場所	伝染源 病葉数	散布前 降雨	散布後 降雨	混用 DMI剤	高濃度散布法		低濃度散布法		慣行 防除法	無処理発症 枝(本/m <sup>2</sup> )
					2-3葉	3-4葉	2-3葉	3-4葉		
2016年 大隅	中	少	中	インダール	65.7	40.3		29.9	59.5	7
2016年 茶業部	中	少	中	インダール	60.1	73.2	63.7	73.2	50.7	12
2017年 大隅	中	少	少	インダール			51.3	67.5	42.9	14
2017年 茶業部	多	中	中	インダール			59.8	42.6	42.1	55
2018年 茶業部	多	多	中	インダール	62.4	54.2			22.7	45
2018年 大隅	多	多	無	オリアール	78.5	80.6			62.4	43
2018年 茶業部	多	少	多	インダール	51.4	59.0			45.8	69
2018年 大隅	中	中	中	オリアール	53.9	37.0			49.7	31
2019年 大隅	少	多	中	インダール	47.0	33.8		33.8	13.2	14

網もち病

試験年次 場所	伝染源 病葉数	散布前 降雨	散布後 降雨	混用 DMI剤	高濃度散布法		低濃度散布法		慣行 防除法	無処理発病 葉(葉/m <sup>2</sup> )
					2-3葉	3-4葉	2-3葉	3-4葉		
2014年 大隅	中	中	中	オリアール		98.8			99.0	681
2017年 大隅	少	少	少	インダール			94.6	96.4	89.3	19
2018年 大隅	中	多	無	オリアール	99.3	99.4			98.2	81
2019年 大隅	少	多	中	インダール	96.3	87.8		63.7	82.0	25

※高濃度散布・・・ダコニール1000 700倍 インダールフロアブル 5000倍 オリアールフロアブル 2000倍

低濃度散布・・・ダコニール1000 1000倍 インダールフロアブル 8000倍 オリアールフロアブル 3000倍